

「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について

多胡 綾花^a

^a 湘北短期大学保育学科

【抄録】

身体表現あそびが保育現場で十分実践されるためにはどうしたらいいのか。身体表現あそび実践上の問題点を明らかにすることが大切であると考え。そこから、身体表現活動実践にむけた具体的な手立てや留意点を明らかにすることを本研究の目的とする。

【キーワード】

保育内容「表現」 身体表現あそび 保育所 こども園

I. はじめに

筆者は身体表現あそびが保育現場で十分実践されるためにはどうしたらいいかについて研究を行ってきた¹。そのために2012年の研究では、表現あそびや身体表現あそびの実践状況を把握した²。この研究により、「身体表現あそびを進んで取り組むことができない子どもへの対応」の問題に多くの保育者が頭を悩ましていると分かった。そのことが身体表現あそび実践の大きな障害となっているのではないか。この課題克服こそ、多くの保育者が取り組みやすい身体表現あそび実践の鍵となると考える。

ゆえに、本研究では前回に引き続き、保育者が感じる身体表現あそび実践上の問題と、さらに身体表現あそびを進んで取り組むことができない子どもとはどのような子どもかについて焦点を当

て、詳しく分析することとした。また、前回は表現あそび全体の実践状況について明らかにしたので、今回は身体表現あそびに絞って、身体表現あそびの具体的な実践状況を探ることとする。

語義規定

本研究における「身体表現あそび」は、「感じたことや考えたことを動きで表現したり、演じて遊んだりするあそびや活動」³示す。

II. 研究目的

本研究では、現任保育者69名を対象にアンケート調査を行うことによって、身体表現あそびの実践状況および実践上の問題点を明らかにし、そこから身体表現あそび実践上の問題解決にむけた方法や手がかりを探ることを本研究の目的とする。

<連絡先>

多胡 綾花 a.tago@shohoku.ac.jp

Ⅲ. 研究方法

1. 調査方法・対象・時期

- ① 方法 質問紙調査法
- ② 調査時期2013年9月（神奈川県H市）
- ③ 調査数
有効回答69名

2. 協力者の属性

表1 勤務先

勤務先	人数
公立	69名
私立	0名

表2 内訳

種別	人数
保育所	32名
幼稚園	10名
こども園と書き換え	10名
その他	10名
記載なし	7名
計	69名

表3 性別

性別	人数
男性	5名
女性	61名
記載なし	3名
計	69名

表4 保育歴

名称	勤続年数	人数
新人群	0～4年未満	17名
中堅群	5年以上	18名
ベテラン群	10年以上	15名
超ベテラン群	20年以上	17名
	記載なし	2名
	計	69名

身体表現の実技講習に参加した現任保育士59名・幼稚園教諭10名の合計69名（保育歴1年目～31年）にアンケートの協力を求めた。保育歴によって、5年未満を「新人群」、5年以上を「中堅群」、10年以上を「ベテラン群」、15年以上を「超ベテラン群」に分けて分析を行った。（表4参照）。担当クラスは表5の通りである。

表5 担当クラス

担当クラス	人数
0歳クラス	5名
1歳クラス	4名
2歳クラス	5名
3歳クラス	8名
4歳クラス	13名
5歳クラス	16名
異年齢クラス	2名
フリー	5名
一時預かり	1名
主任	3名
教頭	1名
副園長	3名
計	69名

3. 質問内容

質問内容は《身体表現あそびの実践状況と内容》、そして《身体表現あそび実践上の問題点、身体表現あそびをやらうとしない子どもへの対応》について尋ねた。

《身体表現あそびの実践状況と内容》では、①実践頻度②実践している時間と、前回調査で明らかになった「身体表現あそびを実践する時間と空間がない」といった意見より③時間が十分あるか、④空間は十分確保されているかについても質問項目を設け、調査した。次に⑤実践内容について、⑥身体表現しているテーマについて、⑦身体表現あそびを実践する中で重視している点について尋

ねた。

次に《身体表現あそび実践上の問題点について》、前回の調査の自由記述で身体表現あそびを実践上の問題点として挙げた18の項目を並べ(表6)、そのように感じるかどうかを5段階で評価してもらった。また進んで実践できない子どもについて、前回の調査で明らかになった9項目(表7)について5段階で回答してもらった。

表6 身体表現あそび実践上の問題点

設問	調査内容
1	身体表現あそびをやろうとしない子どもへの声かけや対応が難しい
2	運動会や発表会など、みんなで一緒に活動するときにやりたがらない子どもへの声かけ・援助が難しい。
3	子どもたちに説明するときに難しい。
4	細やかな動きではなく、身体全体を大きく動かすように声かけ・援助することが難しい。
5	あそびの中で指導・援助となると難しい。
6	子ども主体で進めていくことが難しい。
7	子どもたちのイメージを広げられるような声かけが難しい。
8	子どもたちの身体表現を引き出す環境構成が難しい。
9	どう発展させていくか、発展方法が難しい。
10	年齢にあったものを考えることが難しい。
11	クラスや子どもたちの個性にあったものを考えることが難しい。
12	自身のレパートリーが少ない、偏りがあると感じる。
13	挑戦しようという意欲が持てない。
14	保育者のセンスが問われると感じる。
15	子どもたちが苦痛になっていないか、心配になる。
16	表情や動きのない子の声かけ・援助に苦労している。
17	恥ずかしがる子どもが昔より増えたと感じる。
18	その他

表7 身体表現あそびに進んで取り組めない子どもについて

設問	調査内容
1	身体表現あそび以外のものに興味がある。
2	人前で表現することが苦手である。
3	みんなと一緒に活動することが苦手である。
4	身体的理由(眠い、疲れている、お腹が減ったなど)がある。
5	身体表現あそびの経験が少ない。
6	園の生活になじめていない。
7	身体表現あそび以外の活動にも消極的である。
8	発達に問題を抱えている。
9	その他

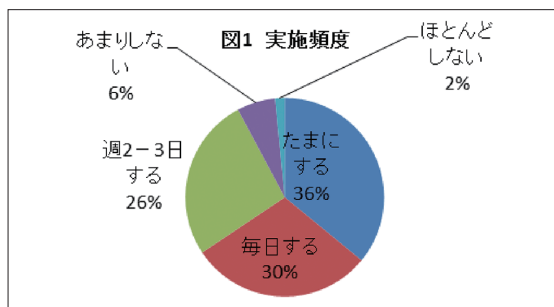
最後に、自由記述で身体表現あそびをやろうとしない子どもへの対応について、こう乗り越えたというエピソードと身体表現あそびに対する考えについて尋ねた。

Ⅳ. 結果

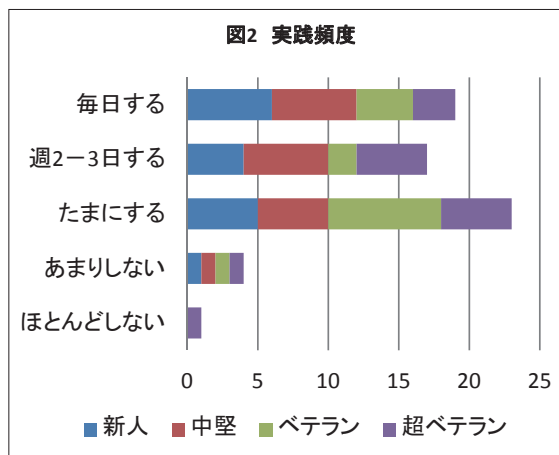
1. 身体表現あそびの実践状況と内容

(1) 実践頻度

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	(人)
毎日する	6	6	4	3	19
週2-3日する	4	6	2	5	17
たまにする	5	5	8	5	23
あまりしない	1	1	1	1	4
ほとんどしない	0	0	0	1	1
小計	16	18	15	15	64



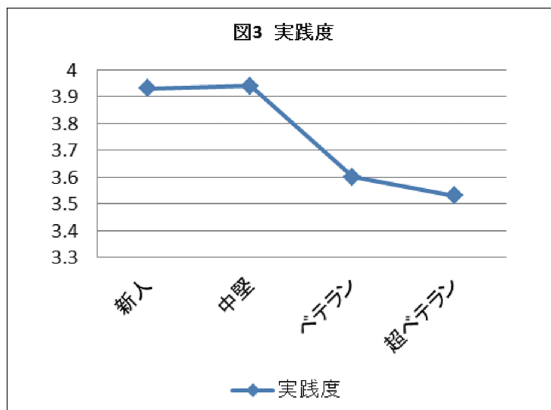
「たまにする」が36%であり、次に「毎日する」が30%であり、「週2-3日する」が26%であり、90%以上の保育士が身体表現あそびを実施していると分かった。保育歴ごとにまとめたものは以下の通りである。



保育歴ごとで見えていくと、新人群では「毎日する」(6人)が多く、次に「たまにする」(5人)となり、中堅群では「毎日する」と「週2-3日する」(各6人)となっている。ベテラン群では「たまにする」(8人)で一番多く、超ベテラン群では、「週2-3日する」と「たまにする」(各5人)となっている。

次に「毎日する」を5点、「週2-3日」を4点、「たまにする」を3点、「あまりしない」を2点、「ほとんどしない」を1点とし、実践度を得点化した。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	(点) 合計
実践度	3.93	3.94	3.6	3.53	3.75



この実践度を保育歴で比較すると、実践度は中堅群が高く、次に新人群となり、ベテラン群になるほど低くなるということ結果が得られた。このことから、中堅・新人保育者において頻度が高く、身体表現あそびを実践しているということが分かった。

(2) 実践時間

身体表現あそびをいつ実践しているかについて、自由記述で回答してもらった。それらをまとめたものが以下の表10と図4である。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
活動中(午前・午後)	10	13	6	5	34
集まり(朝・夕)	1	5	0	1	7
活動の合間	1	2	1	1	5
外あそび前	2	2	0	0	4
夕方	1	2	0	1	4
集まり前	1	1	0	0	2
自由あそび	0	1	0	1	2
給食前	1	1	0	0	2
給食後ひととき	0	1	1	0	2
おやつの後	2	0	0	0	2
一日中	0	1	0	1	2
延長保育	0	0	0	1	1
合計	19	29	8	11	67

「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について

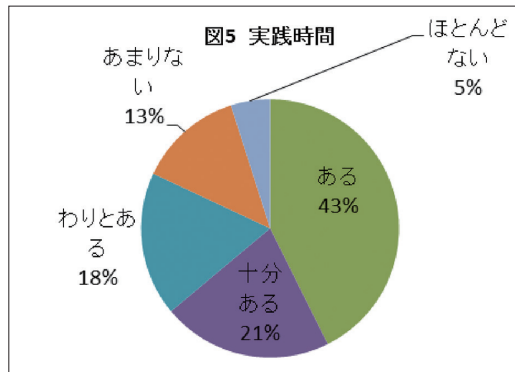
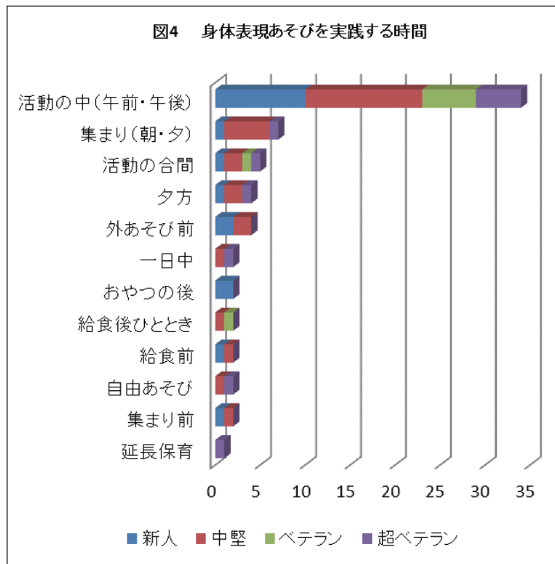
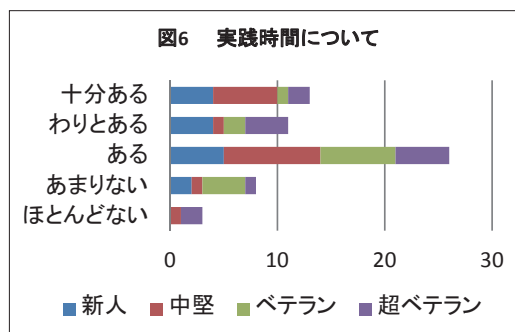


図5より、「ある」が43%、「十分ある」は21%、「わりとある」が18%で、80%の保育者が身体表現あそびを実践する時間があると捉えていることが分かった。身体表現あそびを実践する時間があまりないとする仮説は今回の調査では当てはまらないということが分かった。

結果から、保育歴による違いはなく、圧倒的に「主活動の中」という答えが多かった。午前や午後の主活動の中で多く実践されていると分かった。次に「集まり(朝・夕)」という意見になり、「活動の合間」、「夕方」、「外あそび前」、「一日中」となる。身体表現あそびの実践は、午前・午後の「主活動」の中で主に行われているが、一日の様々な場面で実践される機会を持ち、子どもたちの集中を高めたり、気持ちを切り替えたり、活動の準備や転換のために用いられていると分かった。

(3) 実践時間について

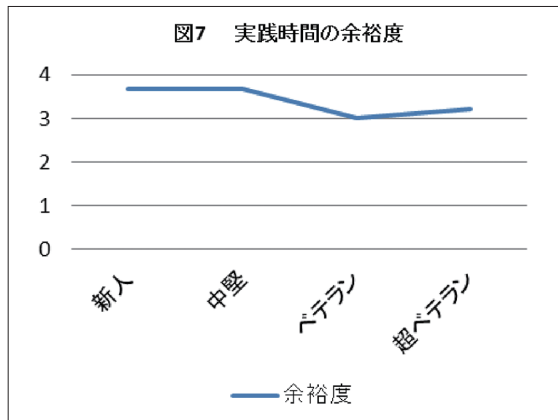
前回の調査で、身体表現あそびを実践する時間をなかなか持てないという意見があった。今回の調査では身体表現あそびを実践する時間が十分あるかについて、尋ねた。



保育歴ごとに見ていくと、新人群は「ある」(5人)、「十分ある」(4人)、「わりとある」(4人)で、中堅群は「ある」が(9人)で、「十分ある」が(6人)となっている。ベテラン群では、「ある」が(7人)であるが、「あまりない」と回答した保育者が(4人)いた。超ベテラン群は、「ある」が(5人)で一番多い。

次に、「十分ある」を5点、「わりとある」を4点、「ある」を3点、「あまりない」を2点、「ほとんどない」を1点として、身体表現あそび実践の時間の余裕度としてまとめたものが以下である。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	(人)
十分ある	4	6	1	2	13
わりとある	4	1	2	4	11
ある	5	9	7	5	26
あまりない	2	1	4	1	8
ほとんどない	0	1	0	2	3
小計	15	18	14	14	61



新人群・中堅群が同じ値で、ベテラン群が一番低く、次に超ベテラン群が低いという結果になった。経験が長いほど、実践時間の余裕度が低いと分かった。

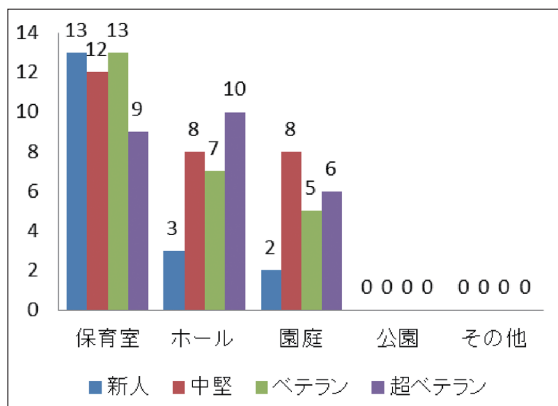
(4) 実践場所

実践場所について、まとめたものが以下である(複数選択可)。

表12 実践場所について(複数回答)

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
保育室	13	12	13	9	47
ホール	3	8	7	10	28
園庭	2	8	5	6	21
公園	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0

図8 実践場所について



保育歴に関係なく、圧倒的に「保育室」(47人)が多い。次に「ホール」(28人)、「園庭」(21人)という順になる。「公園」や「その他」はなかった。身体表現あそびが「保育室」で多く行われているということが分かった。

経験別に見ていくと、新人群は「保育室」(13人)と「ホール」(3人)と「園庭」(2人)の差が大きく、経験を積むほど、「保育室」と「ホール」・「園庭」との差は小さくなる。超ベテラン群は、「保育室」より「ホール」の使用が上回っている。このことから、経験を重ねるほど、身体表現あそびの実践場所が「保育室」以外に広がっていく傾向が見られた。

(5) 実践空間について

前回の調査で、時間と同様に身体表現あそびを実践する空間がないという意見があった。ゆえに、身体表現あそびを実践する空間は十分にあるかについて調査した。結果は以下の通りである。

表13 実践空間について

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
十分ある	2	2	2	4	10
わりとある	3	5	2	4	14
ある	7	8	10	5	30
あまりない	4	1	1	0	6
ほとんどない	0	0	0	1	1
小計	16	16	15	14	61

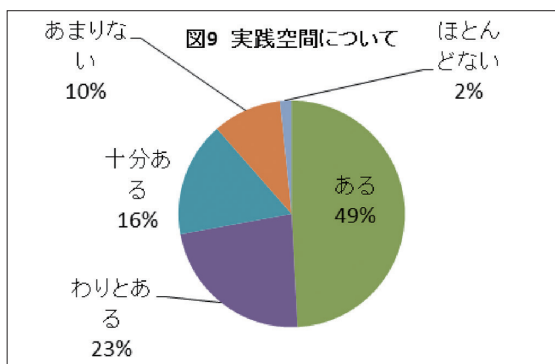
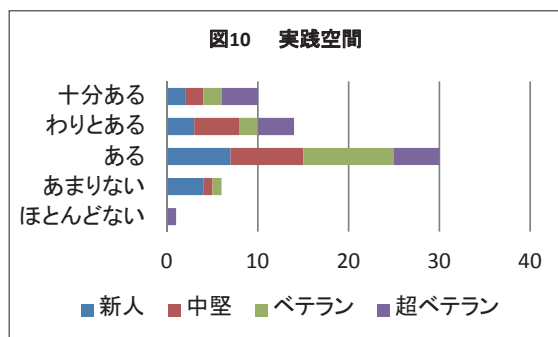


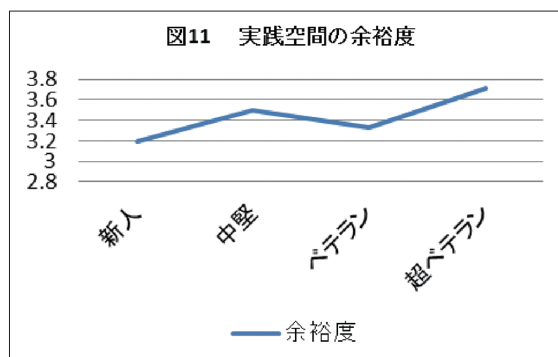
図9が示すように、「ある」が49%で、「わりとある」が23%、「十分ある」が16%であり、全体の88%が身体表現あそびを実践する空間はあると捉えているということが分かった。身体表現あそびを実践する空間があまりないとする仮説は今回の調査では当てはまらないということが分かった。



保育歴ごとに見ていくと、各群ともおおむね身体表現あそびを実践空間はあると回答している。しかし、新人群において「あまりない」という回答も見られる。

次に時間と同様に、身体表現あそび実践の空間があるかについて、実践空間の余裕度としてまとめたものが以下である。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
空間の余裕度	3.19	3.5	3.33	3.71	3.43

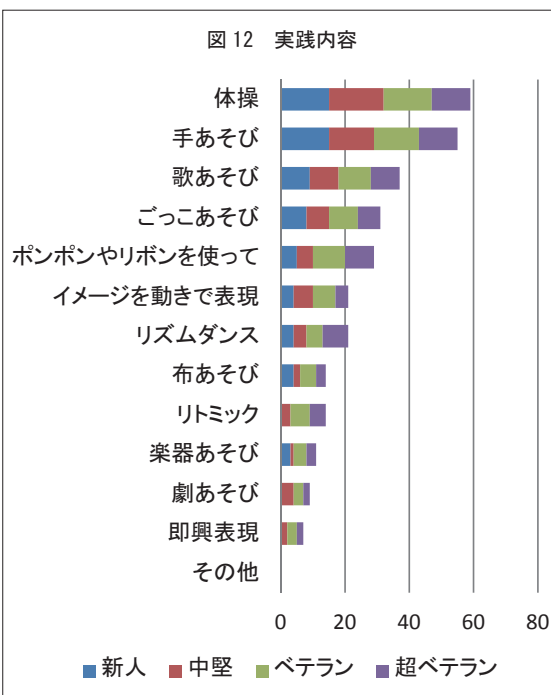


新人群の中には実践する空間が「あまりない」と感じている保育者もあり、値が低くなっている。ベテラン群は「ある」とは感じているが、中堅群の方が、さらに超ベテラン群の方がより実践空間はあると捉えている。

(6) 実践内容

身体表現あそびの実践内容については、24項目から当てはまるものを選択してもらった(複数選択可)。結果は以下の通りである。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
体操	15	17	15	12	59
手あそび	15	14	14	12	55
歌あそび	9	9	10	9	37
ごっこあそび	8	7	9	7	31
ポンポンやリボンを使って	5	5	10	9	29
リズムダンス	4	4	5	8	21
イメージを動きで表現	4	6	7	4	21
リトミック	0	3	6	5	14
布あそび	4	2	5	3	14
楽器あそび	3	1	4	3	11
劇あそび	0	4	3	2	9
即興表現	0	2	3	2	7
その他	0	0	0	0	0



「体操」(59人)が最も多く、次いで「手あそび」(55人)となった。次に「歌あそび」(37人)である。これは保育歴に関係なく、この順位となっている。次に、新人群(5年未満)と中堅群(5年以上10年未満)では、「ごっこあそび」が多く、ベテラン群(10年以上15年未満)と超ベテラン群(15年以上)では、「ポンポンやりポンを持って」の身体表現あそびとなる。そして「リズムダンス」や「動物などのイメージを動きでの表現」となっている。

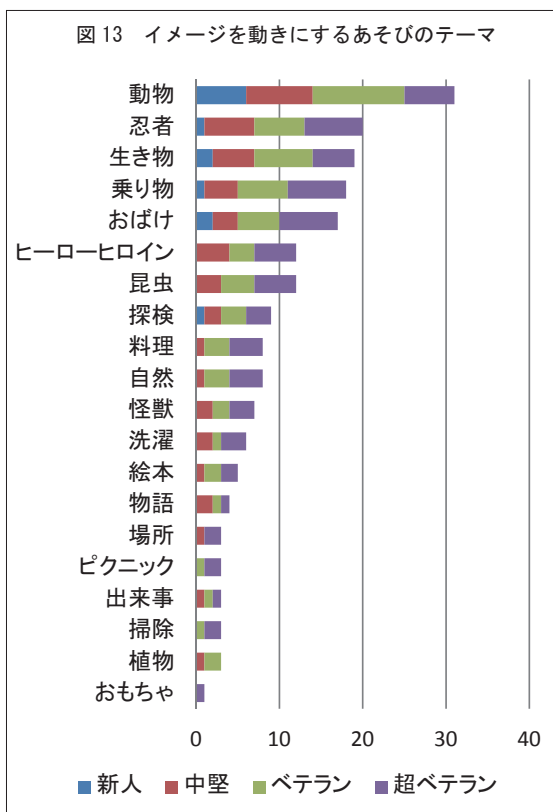
以上のように、実践内容については保育歴による差はあまり見られず、「体操」、「手あそび」、「歌あそび」、「ごっこあそび」、「ポンポンやりポンを持って」、「動きの表現」、「リズムダンス」が身体表現あそびとして多く実践されているということが分かった。

(7) テーマ

「イメージを動きで表現する」あそびについて、どのようなテーマを取り上げて、身体表現あそびをしているかを尋ねた。結果をまとめたものが以下である。

表 16 イメージを動きにするあそびのテーマについて (人)

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	合計
動物	6	8	11	6	31
忍者	1	6	6	7	20
生き物	2	5	7	5	19
乗り物	1	4	6	7	18
おばけ	2	3	5	7	17
昆虫	0	3	4	5	12
ヒーロー・ヒロイン	0	4	3	5	12
探検	1	2	3	3	9
自然	0	1	3	4	8
料理	0	1	3	4	8
怪獣	0	2	2	3	7
洗濯	0	2	1	3	6
絵本	0	1	2	2	5
物語	0	2	1	1	4
植物	0	1	2	0	3
掃除	0	0	1	2	3
出来事	0	1	1	1	3
ピクニック	0	0	1	2	3
場所	0	1	0	2	3
おもちゃ	0	0	0	1	1



一番多いのは「動物」(32人)であった。動物はやはり子どもたちが大好きなもので、動くものであることから、身体表現しやすいテーマといえる。次に、「忍者」(22人)が上位に挙げられた。ベテラン群では一番多いテーマである(7人)。次に、動物と並ぶ「生き物」(20人)、「乗り物」(17人)となり、空想上のものとして「おばけ」(15人)、「動物」や「生き物」と近い「昆虫」(13人)、テレビの影響であるのか、「ヒーロー・ヒロイン」(11人)となった。

保育歴による違いについてであるが、実践内容と同様に、各群上位について差はあまり見られなかった。しかし、下位順位のものについては、ベテランになるほど、様々なテーマを取り上げている保育者が多く、新人群との差が見られた。

(8) 実践する時に重視している点

身体表現あそびを実践する際に、保育者が重視する点について、保育所保育指針の保育内容から抜粋した下記の11項目について3つ選択してもらった。

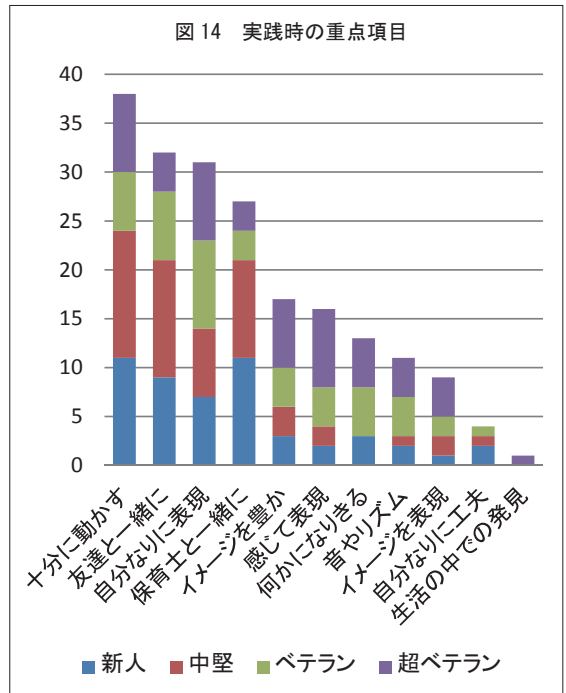
表 17 実践時の重点項目

	項目
1	十分に体を動かす
2	保育士と一緒にあそびを楽しむ
3	友達と一緒にあそびを楽しむ
4	音やリズムに気づき、感じる
5	生活の中での発見や感動を共有する
6	イメージを豊かに広げる
7	感じたことを自由に動きで表現する
8	自分なりに表現する
9	イメージを動きで表現する
10	自分なりに工夫してあそぶ
11	何かになりきってあそぶ

① 保育歴からの分析

結果は以下の通りである。

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	(人)
十分に動かす	11	13	6	8	38
友達と一緒に	9	12	7	4	32
自分なりに表現	7	7	9	8	31
保育士と一緒に	11	10	3	3	27
イメージを豊か	3	3	4	7	17
感じて表現	2	2	4	8	16
何かになりきる	3	0	5	5	13
音やリズム	2	1	4	4	11
イメージを表現	1	2	2	4	9
自分なりに工夫	2	1	1	0	4
生活の中での発見	0	0	0	1	1



まずは、表現する媒体である身体を隅々まで使い、大きく表現するという「十分に体を動かす」(38人) ことを多くの保育者が重視して実践していると分かった。次に「友達と一緒にあそびを楽しむ」(32人)、「自分なりに表現する」(31人) となり、その次に「保育士と一緒にあそびを楽しむ」(27人) となる。

保育歴ごとに見ていくと、新人群では「十分に体を動かす」と「保育士と一緒にあそびを楽しむ」(各11人) が最も多くなっている。中堅群では「十分に体を動かす」(13人) こと、その次に「友達と一緒にあそびを楽しむ」(12人) ことが上位に挙がっている。ベテラン群では「自分なりに表現する」(9人) が最も多く、次に「友達と一緒にあそびを楽しむ」(7人) となっている。超ベテラン群では「十分に体を動かす」と「自分なりに表現する」(8人) が一番重視する項目となっている。このように新人群・中堅群では「十分に体を動かすこと」と「保育士と一緒にあそびを楽しむ」ことを重視

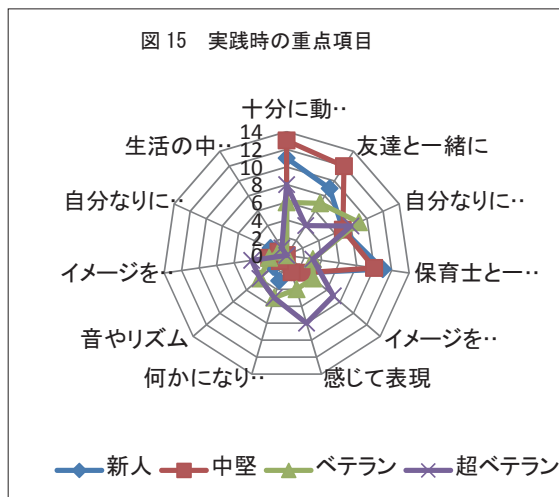
している。中堅群とベテラン群では「友達と一緒にあそびを楽しむ」こと、ベテラン群と超ベテラン群では「自分なりに表現する」ことを大事に身体表現あそびを実践しているということが分かった。

同様の結果を以下のレーダーにまとめ、各項目間のバランスについて見ていく。

表19 実践時の重点項目（担当クラスごと）

	乳児				幼児			その他		
	0歳	1歳	2歳	計	3歳	4歳	5歳	計	異年齢一時預	
十分に動かす	5	4	3	12	6	7	6	19	1	1
保育士と一緒に	5	4	3	12	4	4	0	8	2	1
友達と一緒に	0	2	1	3	4	9	10	23	1	1
音やリズム	2	0	2	4	1	1	2	4	1	0
生活の中での発見	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
イメージを豊か	0	1	0	1	1	3	4	8	0	0
感じて表現	1	0	0	1	0	5	5	10	0	0
自分なりに表現	2	1	0	3	1	5	11	17	1	0
イメージを表現	0	0	0	0	4	0	3	7	0	0
自分なりに工夫	0	0	0	0	0	1	3	4	0	0
何かになりきる	0	0	0	0	3	4	1	8	0	0

図15 実践時の重点項目



レーダーの描く図のバランスを見ていくと、ベテラン群や超ベテラン群は上位の項目以外に、「イメージを豊かに広げる」項目や「感じことを自由に動きで表現する」項目や「何かになりきってあそぶ」項目も選択しており、保育経験を重ねると、身体表現あそびについて「十分に身体を動かす」、「保育士と一緒にあそびを楽しむ」、「友達と一緒にあそびを楽しむ」、「自分なりに表現する」項目以外のことにも目を向け、様々なねらいを持って実践できるようになっていくと分かった。

② 担当クラスによる分析

次に、担当クラスによる分析を行った。結果は以下の通りである。

図16 実践時の重点項目（乳児）

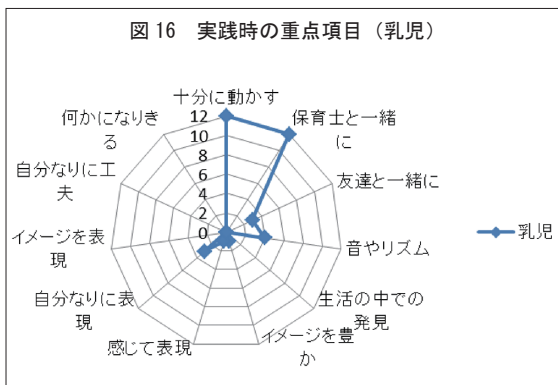


図17 実践時の重点項目（幼児）

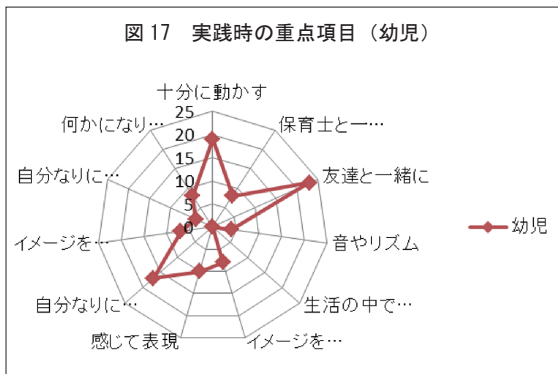


図16と図17が示すように、担当クラスによる重点項目の差異が見られた。

乳児クラス担当の保育者は「十分に体を動かす」(12人)ことや「保育士と一緒にあそびを楽しむ」(12人)ことを上位に選んでいる。乳児においては保育士と一緒にあそびを楽しみながら、身体を十分に動かすことを意識していることが分かった。

一方、幼児クラスでは「友達と一緒にあそびを

「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について

楽しむ」(23人) ことが上位で、次に「十分に体を動かす」(19人) となり、そして「自分なりの表現」(17人) となる。多くの保育者が友達との関わりを大切にしながら、身体を大きく使って自分なりの表現を見つけていくことを大切に実践しているということが分かった。

2. 身体表現あそび実践上の問題点

(1) 実践する上で難しいと感じる点

前回の研究で、身体表現あそびを実践する上で問題点について整理した。その問題点として挙げられた18項目について、「とてもよくあてはまる」を5点、「よくあてはまる」を4点、「あてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点として得点化した。結果は以下の通りである。

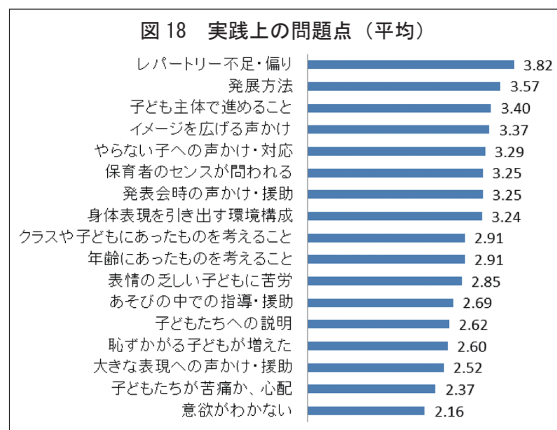


表 20 実践上の問題点

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラ	計
レパートリー不足・偏り	4.47	4.06	3.73	3.00	3.82
発展方法	3.82	3.94	3.40	3.12	3.57
子ども主体で進めること	3.65	3.53	3.33	3.06	3.40
イメージを広げる声かけ	3.59	3.53	3.33	2.94	3.37
やらない子への声かけ・対応	3.41	3.53	3.27	3.06	3.29
保育者のセンスが問われる	3.12	3.24	3.47	3.24	3.25
発表会時の声かけ・援助	3.24	3.40	3.29	3.12	3.25
身体表現を引き出す環境構成	3.29	3.71	3.13	2.76	3.24
年齢にあったもの考えること	3.35	3.29	2.60	2.35	2.91
クラスや子どもにあったもの考えること	3.35	2.82	2.87	2.53	2.91
表情の乏しい子どもに苦勞	2.76	3.00	2.87	2.71	2.85
あそびの中での指導・援助	2.88	3.12	2.53	2.24	2.69
子どもたちへの説明	3.00	2.75	2.57	2.18	2.62
恥ずかがる子どもが増えた	2.25	2.76	2.87	2.53	2.60
大きな表現への声かけ・援助	2.41	2.76	2.73	2.24	2.52
子どもたちが苦痛か、心配	2.35	2.24	2.53	2.35	2.37
意欲がわかない	2.19	2.06	2.20	2.12	2.16

以上の結果から、保育歴に関係なく、保育者が「当てはまる」と挙げられた(平均3点以上)身体表現あそび実践上の問題の項目は以下の8項目である。特に、「レパートリー不足・偏り」(3.82)は新人群と中堅群で特に高い得点となった。

図 19 身体表現あそび実践上の問題点

- ① レパートリーの不足・偏り
- ② 発展方法
- ③ 子ども主体で進めること
- ④ イメージを広げる声かけ
- ⑤ やらない子への声かけ・対応
- ⑥ 保育者のセンスが問われる
- ⑦ 発表会時の声かけ・援助
- ⑧ 身体表現を引き出す環境構成

前回の研究で一番多く挙げられた「やらない子への声かけ・対応」(3.29)は、今回の調査では5番目に位置し、「発展方法」(3.57)や「子ども主体で進めること」(3.40)「イメージを広げる声かけ」(3.37)がより上位に挙がっている。実践上の問題点として新たに確認できた。

次に「身体表現を引き出す環境構成」(3.24)や前述の「イメージを広げる声かけ」(3.37)については、新人群・中堅群・ベテラン群では当てはま

るとの回答が多かったが、超ベテラン群では平均が2点代であり、当てはまらないという傾向が見られた。経験によって解決が図られる問題点ということが示された。

そして「年齢にあったものを考えること」(2.91)や「クラスや子どもにあったものを考えること」(2.91)、「表情の乏しい子どもに苦勞」(2.85)、「あそびの中での指導・援助」(2.69)、「子どもたちへの説明」(2.62)を難しいと感じるという意見は新人群や中堅群では見られるが、ベテラン群や超ベテラン群では見られず、全体としては「当てはまらない」との結果になり、前回の研究では実践上の問題点として挙げたが、今回の調査では問題点として捉えられていないと分かった。これらの問題点は保育の経験を積むことで克服できると今回の結果からは考えられる

(2) 実践上の問題点8項目について

今回の結果から導き出された実践上の問題点8項目について、保育歴ごとに折れ線グラフで表した。

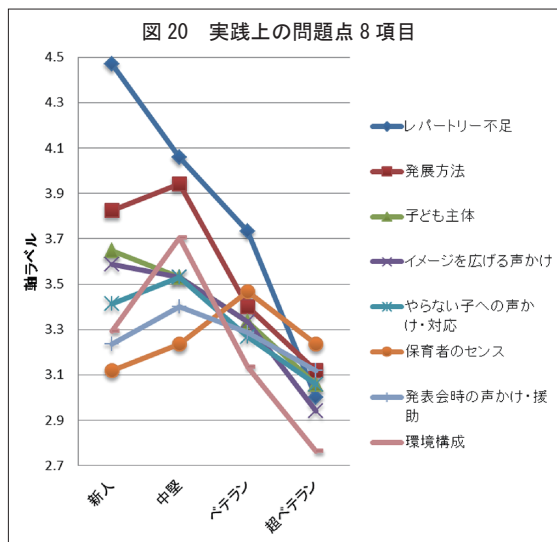


図20より、どの問題点も右下がりの傾向を示し、経験によって解決につながる事が確認できた。各項目を見ていく。

まず「レパートリー不足・偏り」は、新人群で特に高い値を示している。このことから新人期に保育者が直面する問題と考えられる。次に「子ども主体で進めること」と「イメージを広げる声かけ」はゆるやかな右下がりである。この2点は保育の命題といえ、保育者は常にこのことを意識しながらより良い保育を目指している。ゆえにこのような結果になったと考えられる。

それ以外の問題点は中堅群にピークが見られ、その後右下がりとなっていく。特に「発展方法」、「身体表現を引き出す環境構成」はその山が大きい。これらの問題はいろいろなことが見えてきた中堅期に多く感じる問題点であると考えられる。「やらない子への声かけ・対応」と「発表会時の声かけ・対応」もこの形で、類似した形を示している。新人期より中堅に強く感じる問題点であり、ベテランになるほど解決できる。

そして、他と全く違う形を示すのが、「保育者のセンスが問われる」という問題点である。ベテラン群で高い値を示しており、経験を積むほどより強く感じる問題ということが分かった。

(3) 進んで取り組めない子どもについて

身体表現あそびの実践上の問題点と同様に、前回の研究で明らかになった身体表現あそびに進んで取り組めない子どもの理由として挙げた9項目について、「とてもよくあてはまる」を5点、「よくあてはまる」を4点、「あてはまる」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点と点数化した。結果は以下の通りである。

図 21 身体表現あそびに進んで取り組めない子どもについて（平均）

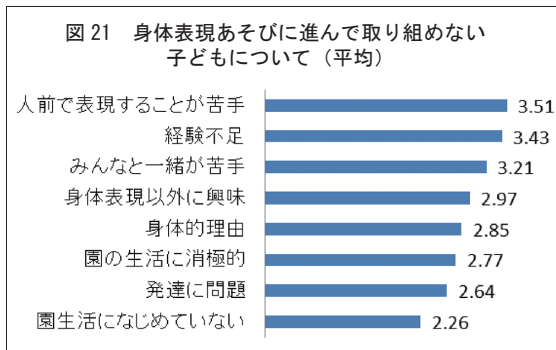


表 21 身体表現あそびに進んで取り組めない子どもについて（平均）

	新人	中堅	ベテラン	超ベテラン	計
人前で表現することが苦手	3.29	3.82	3.67	3.31	3.51
経験不足	3.24	3.62	3.47	3.40	3.43
みんなと一緒にが苦手	3.12	3.29	3.13	3.33	3.21
身体表現以外に興味	3.00	3.00	3.00	2.80	2.97
身体的理由	2.76	2.94	2.47	3.27	2.85
園の生活に消極的	2.41	3.15	2.67	2.73	2.77
発達に問題	2.41	2.94	2.60	2.53	2.64
園生活になじめていない	2.12	2.35	2.20	2.40	2.26

以上の結果から、保育歴に関係なく、保育者が「当てはまる」と挙げられた身体表現あそびに進んで取り組めない子どもの姿は以下の3つである。

図 22 進んで取り組むことができない理由

- ・人前で表現することが苦手
- ・身体表現あそびの経験が少ない
- ・みんなと一緒に活動することが苦手

3. 身体表現あそびを進んで取り組むことができない子どもへの対応

身体表現あそびを積極的にやろうとしない子どもに対してどう対応し、どのように働きかけたかについて、自由記述で記載するように求め、25件の回答が寄せられた。表にまとめたものが表22である。

(1) 身体表現あそびを進んで取り組むことができない子どもへの対応

これらのエピソードより、その解決方法として、「モデル」、「受容」、「強制しない働きかけ」、「きっかけ作り」の4つのキーワードに整理できた。

① モデル

まず、多くの保育者の回答で見られたのは「保育士の自分が楽しそうに動くことが一番だと思い、とにかく笑顔で、他の子どもたちと一緒に楽しめました。」(EP1)、「なかなか自分を表現することができない子や恥ずかしがる子には一緒に保育者が身体を動かし、率先して楽しむことで、誘いかけるようにしています。」(EP11)、「教師がモデルになると、「そうやっていいんだ」、「そうやる方法もあるんだ」と分かって遊び出せるようだ。」(EP17)とあるように、まずは保育者が楽しそうに動いて見せることで、楽しさが伝わり、どのように遊んだらいいかを子どもたちが理解できるとある。身体表現あそびにとって、モデルとしての保育者の役割は大きい。

また保育者以外に重要な存在であるのが「他児」である。「まずは他児がやっている姿を見て、無理強いをせず、参加できるようにしていった。」(EP9)とか、「他児が楽しそうにやっているのも見せ続けて、やってみようとするのを待った。」(EP23)とある。友達が楽しそうに活動する姿は大きな刺激やきっかけとなっていることが分かる。保育者や他児の楽しそうに活動する姿は身体表現あそびへの参加につながる。

② 受容

3歳児女児のエピソード (EP7) から「その子の気持ちをとことん受け止めた」と、やりたくない子どもの気持ちをまずは受け止めることから始め、「表現に正解はないと思うので、全てを受け入れ、認めた。」とある。この「受容」という姿勢が子どもたちの表現を引き出している。「具体的に

表22 身体表現あそび 乗り越えエピソード

■新人群 6件■

	エピソード	保育歴	現在担当	乗り越えキーワード
1	保育士の自分が楽しそうに動くことが一番だと思い、とにかく笑顔で、他の子どもたちと一緒に楽しみました。	1年	0・1歳クラス	モデル(保育者)
2	日々悩んでいるため、まだ乗り越えることができていません。保育者が楽しいことを真剣に伝える。	1年	1歳クラス	働きかけ
3	傍で無理のない範囲で誘いながら遊ぶ。友達表現の面白さを知る。発表の場を設ける。	1.5年	2歳クラス	働きかけ(強制しない)・モデル(他児)
4	声をかけて、様子を見せ、振りを大きく見せて楽しさを伝えた。	2年	5歳クラス	モデル(保育者)
5	子どもがイメージを持ち、楽しさを感じられるよう保育者がまず楽しそうに行う姿を見せ、また目をつぶってみたり、動と静の動きを入れ、メリハリをつけながら行うことで、始めてみようかなというタイミングがつかめるとよいと思っています。	3年	5歳クラス	モデル(保育者)・きっかけ作り
6	身体表現することで、どのような良さがあるのかを伝える。たとえば「大きく動かすと、筋肉がつくよ」など。	4年	5歳クラス	働きかけ

■中堅群 9件■

	エピソード	保育歴	現在担当	乗り越えた方法
7	(3歳女児) その子の気持ちをとことん受け止めた(どうしてやりたくないのか、どのように動きたいか→「わからない」と言ってきたので、保育者の真似から始めた。→自由に動けるようになった。表現に正解はないと思うので、全てを受け入れ、誉めた。	5年	2歳クラス	受容
8	無理に誘うのではなく、「やりたくない時は見てね」「最後の1回は一緒にやろうね」と声をかけたら、見ていた子が1回だけはみんなと一緒にやったことがあります。	5年	0歳クラス	強制しない働きかけ
9	やるうとしない子は身体表現あそびの経験が少ない場合が多かったので、まずは他児がやっている姿を見て、無理強いせずに参加できるようにしていった。	5年	2歳クラス	モデル(他児)
10	自由に表現する活動が苦手な子が多いので、始めは保育者の真似をすることでたくさんの動きを経験したのちに自分のものにして、自由に表現できるようになってきました。	5年	5歳クラス	モデル(保育者)
11	なかなか自分を表現することができない子や恥ずかしがる子には一緒に保育者が身体を動かし、率先して楽しむことで、誘いかけるようにしています。	5年	5歳クラス	モデル(保育者)
12	信頼関係をつくる。地道な関わりを積み重ねていく。具体的に誉めたり、クラスの人みんなで認め合ったりする。	6年	5歳クラス	働きかけ・受容
13	保育者が傍につき、思い切り体を動かし、モデルとなって楽しさを共有していった。	6年	3歳クラス	モデル(保育者)
14	やってみた時に十分に認めたり、保護者にも伝えると嬉しかったのか、自分から遊び始める姿が見られた。身体表現あそび以外にも活動的な姿が増えていった。十分に認める過ぎるというのはその子によってだと思うので、一人ひとりにあった対応が大事だと思います。	9年	3歳クラス	受容
15	無理強いをせずに心が動くのを待つよう心掛けた。	9年	5歳クラス	強制しない働きかけ

■ベテラン群 10件■

	エピソード	保育歴	現在担当	乗り越えた方法
16	レベルを下げる(クラス全体の)	10年	4歳クラス	働きかけ
17	表現すること自体、どうしたらよいか分からないという幼児が意外と多いように思う。教師がモデルとなると、「そうやっていいんだ」「そうやる方法もあるんだ」と分かって遊び出せるようだ。そこからは子どもなりの動きが出せたときに認め、誉めること。	11年	4歳クラス	モデル(保育者)・受容
18	その子の関心あるものになりきる動きを取り入れる。	12年	5歳クラス	きっかけ作り
19	・日々繰り返し行う(諦めず何度も誘う)・楽しんで行っていることを示す・楽しそうだと思って参加してみちゃった姿を→認める・誉めるor→あえて気づかない(声をかけず見守る)	13年	0・1歳クラス	強制しない働きかけ・モデル(保育者)・受容
20	プレスレットやその子の好きな音楽をかけるなどして、きっかけ作りをしたことはあります。	13年	0・1歳クラス	きっかけ作り

■超ベテラン群 4件■

	エピソード	保育歴	現在担当	乗り越えた方法
21	少しでもオーバーにたくさん誉めたり、楽しそうなこの姿を見せたりして、少しずつ誘いかけるようにしました。が、基本的には子どもは喜んで参加しているので、非常に弱った困ったというようなエピソードはないです。	22年	フリー	受容
22	・その子の興味あるものの表現ができるようにする。・無理強いをせず、見ることの参加もよしとする。・タイミングを見て、誘う。	24年	フリー	きっかけ作り・強制しない働きかけ
23	・他児が楽しそうにやっているのを見せ続けて、やってみようとするのを待った。・別室で、または別の時に1対1、または少人数でやった。	24年	5歳クラス	モデル(他児)・働きかけ
24	絵本などでイメージを広げる	28年	4歳クラス	きっかけ作り

■その他■

	エピソード	保育歴	現在担当	乗り越えた方法
25	学生時代の実習のとき、5歳児で運動会の踊りの練習の時、その場にはいても、立ちつくす子がいた。そこで、その子の体の踊りに合わせて動かし、一緒に踊れるようにした。一緒に動かしたことで、動きに自信が持てたようで、次の日の運動会の踊りの練習では保育者が近くにいかなくても、自分一人で笑顔で踊り始める姿が見られた。	未記入	一時預かり	働きかけ

誉めたり、クラスのみinnで認め合ったりする。」(EP12)、「やってみた時に十分認めたり、保護者にも伝えると嬉しかったのか、自分から遊び始める姿が見られた」(EP14)、「子どもなりに動きが出せたときに認め、誉めること。」(EP17)とある。身体表現あそびは正解がないからこそ、自分なりに考えて出てきた動きをその子どもの表現と認めることができる。受け止めてもらった多くの経験が子どもの中に自信を育て、どんどん自己表現できる子どもになるとこれらのエピソードは語っている。

一方で、「誉める」だけでなく、「あえて気づかない」(EP19)ふりをするという意見があった。すぐに声をかけてしまうと逆に身構えてしまう子どももいるかもしれない。安定して活動するまであえて声をかけないで見守るという保育者の考えであろう。あえて知らないふりをすることが大きな意味での「受容」となることを示唆している。誉めるばかりが「受容」ではなく、「そっと見守る」援助も「受容」であり、その両方を考えながら、子どもたちの表現を受け止めていく必要がある。

③ 強制しない働きかけ

次に「無理強いをせず心が動くのを待つよう心がけた」(EP15)、「見ることの参加もよしとする」(EP22)という意見がいくつか見られた。子どもの主体性を重視して、活動を強制しないという姿勢は保育の基本の考えである。見ているだけでも参加と捉え、大らかな姿勢で子どもを受け止める、また「今は見ていたい」とする子どもの気持ちを「受容」する。そして心が動く、また動きたくなる瞬間を「待つ」。強制するのではなく、子どもたちが動き出すその瞬間までじっと待つ姿勢で臨むことが大切であると分かった。

また、ただ「待つ」のではなく、「傍らで無理の範囲で誘いながら遊ぶ」(EP3)、「地道な関わりを積み重ねていく」(EP12)、「日々繰り返し行う

(諦めず何度も誘う)」(EP19)とあるように、そこには継続的な働きかけが必要となってくる。それ以外にも、楽しさや大切さを諦めず説明し続けるという意見もある。子どもたちの心に届くまで、諦めずに継続的に働きかけをすることで、子どもたちがあそびに参加できる機会を生む。

そして、いざやるという段階になったときうまくいかない時もあるが、まずは「保育者と一緒にやってみる」ことが大切であるとの意見が多かった。保育者と一緒に行うことで、安心して活動に参加できるのであろう。また、それ以外に「別室で行う」という方法、夕方や他の時間であろうか、「別の時に行う」や自由あそびなどの場面であろうか、「一对一の個別で行う」という意見もあり、子ども一人ひとりに合った方法で対応することが大切であると分かった。

④ きっかけ作り

「その子の関心のあるものになりきる動きを取り入れる」(EP18)、「その子の興味あるものの表現ができるようにする」とあるように、子どもたちの興味・関心にあった題材を選択することや、「目をつぶってみたり、動と静の動きを入れ、メリハリをつけながら行うことで、始めてみようかなというタイミングがつかめるとよいと思っています」(EP5)や「プレスレットやその子の好きな音楽をかけるなどして、きっかけ作りをすることはあります」(EP20)とあるように、動き出すタイミングを図ったり、動き出すきっかけ作りを大事にしたとの意見も見られた。題材の選択や動機づけがとても大事である。

以上のキーワードをまとめる。

図23 実践上の問題を乗り越えたエピソードまとめ

■四つのキーワード■	
①	モデル ・保育者 ・他児
②	受容 (認める) 子どもの動きに対して声をかける (誉める) ・子どもなりの動きが出てきたら誉める ・クラスに紹介する、認め合う ・保護者に伝える (見守る) あえて気づかないふりをする
③	強制しない働きかけ (強制しない) (待つ) (誘い続ける) 日々・何度も (説明する) 楽しさや大切さを真剣に伝える ↓ ・一緒に行く ・個別に対応 (別室・別時・1対1)
④	きっかけ作り (題材選択) 興味・関心にあつたもの・音楽 (動機づけ・環境構成)

また、このエピソードの中で、「表現すること自体、どうしたらよいか分からないという幼児が意外と多い」(EP17) や「やろうとしない子は身体表現あその経験が少ない場合が多かった」(EP9) にあるように、どのように表現していいか戸惑う子どもたちの姿を保育者たちが感じている。一方で、「基本的に子どもは喜んで参加しているので、非常に弱った、困ったというエピソードはないです。」(EP21) とあるように、身体表現あそびは多くの子どもたちが進んで参加するあそびとする意

見も見られた。この示唆も重要なものと考えられる。

4. 身体表現あそびについての考え

最後に、身体表現あそびについての考えを自由に書いてもらった。保育歴ごとにまとめたものが、表23である

(1) 心身のリフレッシュ

身体表現あそびの捉え方として、まず「心もリフレッシュできる」(No.2)、「リフレッシュしたり、楽しい気持ちになり、心晴れやかになる」(No.10)、「気持ちを開放するのにとてもよいと思います」(No.31) とあるように、身体表現あそびの心身に働きかける効果について評価する意見が見られた。とにかく難しいことを考えないで、心と身体を一つにして動く心地よさを味わうことが身体表現あそびの醍醐味といえる。そして、「生活面においても気持ちを発散することで安定感を見いだせると思います」(No.20) とあるように、情緒の安定につながるとある。また、友だちとの「つながり」を促すあそび (No.6,9,12,34) という意見や、「自己表現の一つ」(No.13,22) だとする意見もあり、子どもたちの育ちや発達になくはならないあそびと捉えているということが分かった。

「普段の保育に取り入れていきたい」(No.14) や「家庭では味わえないあそびなので、たくさん取り入れたいと思っています」(No.28) とあるように、身体表現あそびを積極的に取り入れていきたいとする保育者の強い思いというものが感じられた。加えて、「子どもたちに様々な種をまいていけるように、保育者としての引き出しを豊かにしていきたいと思っています」(No.12) とあり、より良い保育を目指している保育者の向上心が表れている。

また、身体表現あそび実践上の留意点について、以下のようなことが述べられている。

「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について

表 23 身体表現あそびに対する考え（自由記述）

No	新人群 (11件)	保育歴
1	子どもがイメージを膨らませながら自発的に行えるものだと思います。	1年
2	身体だけでなく、心もリフレッシュできるよい保育内容だと思います。	1年
3	体を動かして運動面にもよく楽しめるので、取り入れていきたいです。自分のクラスの子の年齢や様子に合ったあそびを考えることが難しいと感じることが多いので、よく学んでいきたいです。	1年
4	やってみたいと思うものの、方法やレパートリーに困り、なかなか行えない。何をどうしたらいいか分からなくなり、このような研修を学んだものを自分のレパートリーにしていきたい。	1年
5	日常の中で取り入れたいと思うが、どういったものを取り入れたらよいのか、自分自身のレパートリーが少ないために出来ないことも多い。身体表現あそびは遊びによっては場所も道具も必要なく、その場ですぐに行える遊びでもあるため、手あそびのように、簡単に身近なものから毎日取り入れていきたい。	1年
6	人と人とつながりを持って、自由に表現する時間	1年
7	子どもたち自身の表現を大切にしたいと思いますが、やはり自分で考えられる子どもであれば、どうしたらよいかそれが難しい子がいることを感じます。保育者率先して表現する楽しさを伝えられればと思いますが、真似ばかりでは誘導のようで子どもたち自身の表現を大切にできないのではないかと感じることもあり、どうしたら引き出しとあげられるのか、今は考え中です。	1.5年
8	子どもが遊ぶ中で体を動かしたりなど、楽しくと思えるように心がけていきたい。	2年
9	子ども達の成長や友達とのつながりになってはならないものだと思います。	3年
10	頭で考えるだけでなく、体を動かすことで、よりイメージが膨らませることができると思う。また体を動かすことで、リフレッシュしたり、楽しい気持ちになり、心が晴れやかになると思う。	3年
11	音楽などに気軽に親しめる。	4年
No	中堅群 (11件)	保育歴
12	ちょっとした時間にも主活動にも場面に合わせて使うことができ、気持ちを発散させたり、友だちとのつながりを感じたり、体の発達になったり、保育者のねらいによって、大きく子どもの身体に関わる大事な活動だと思います。子どもたちに様々な種をまいていけるよう、保育者としての引き出しを豊かにしていきたいと思っています。	5年
13	自分の気持ちをのびのびと表現できるようになるための遊びの一つ。歌・体・表情など、様々な方法で気持ちなどを表現できるようにしたい。健康で丈夫な体づくりに関する遊び。	5年
14	子どもたちにイメージすること・イメージを膨らませること、またイメージしたものを身体で表現することを経験できるものとして、普段の保育に取り入れていきたいです。	5年
15	身体表現は子どもたちの持つイメージを元に行っていく印象があるので、乳児クラスで行うのは難しいと感じてしまうが、身体を動かすことや何かを表現することは精神的にも身体的にも発達を促す大切な要素だと感じるので、年齢に合ったあそびを考えていきたい。	5年
16	乳児期にハイハイをたくさんするなど、手の平をついて支持運動をしていくと幼児になった時に運動能力が向上したり、体を思うように動かせたりできることがあるので、遊びの中でたくさん身体表現をしていけるように保育していきたいと思いました。	5年
17	自由な表現	5年
18	レパートリーの広げ方が難しいが、子どもの中から動き・表現が自然と出てくるので、そこをうまく広げていくとよいと思う。	6年
19	様々な場面で一人ひとりが自分らしく生活していけるように日々の生活・遊びがとても大切と思ひながら、保育にあたっています。	6年
20	自由な動きやイメージが子ども達ののびのびとした表現にも繋がると、生活面においても気持ちを発散することで安定感を見いだせると思います。	6年
21	まずは楽しむことが大事だと思うので、子どもたちが好きなもの・興味があるものから引き出し、発展できるようにしています。	9年
22	自分を表現するための方法の一つだと思う。	9年
No	ベテラン群 (10件)	保育歴
23	楽しい!	10年
24	いろいろな曲・音楽に親しみながら、自由に自分なりに表現できるように取り組むように心がけています。	11年
25	経験を積み重ねていくことで、イメージが広がったり、自己表現が豊かになっていくと思う。	12年
26	身体表現は子ども達の成長の中で大切な遊びの一つだと思います。	12年
27	心和やかに遊ぶ遊び、心がリラックスできる遊びだと思っています。	12年
28	家庭では味わえないあそびなので、たくさん取り入れたいと思っています。	13年
29	子どもの年齢や興味に応じて方法を変えていくことで楽しめると思います。	13年
30	表現あそびは苦手なので、なかなか取り組んだことがなかったのですが、楽しかったです。クラスでやっていきたいです。	13年
31	気持ちを開放するのにとてもよいと思います。	14年
32	日頃から音楽を聞いて、体を動かしていると、そのことが自然になるので続けたいです。	14年
No	超ベテラン群 (6件)	保育歴
33	あまりかまえて行ったことがない。何かをする際自然と体が + a 動いていけば身体表現だと思うし、アイドルの真似をして身振り・手振りを楽しめれば表現あそびとフランクに考えている。	20年
34	表現することを通して、子どもが自分自身に自信を持てるように援助したり、声けたりしてを心がけています。また友達の表現を認めたり、互いに刺激し合ったりできるようにもしています。あとはあまり子どもを型にはめず、楽しく感じるままに!表現してほしいと思っていますので、そのためにも自分も子どもたちと楽しむように心がけています。	22年
35	楽しく行えるように自然と動きたくするような環境、内容!	24年
36	楽しい。自分が学生の時にいろいろな経験をさせてもらった。	24年
37	幼い頃から体験したり、経験することで、抵抗なく、動けるとよいのではないかと。	28年
38	・堅苦しく考えずに行うことが必要で、保育者も楽しむ。・楽しくなるかどうかは、保育者の働きかけがポイント。・年齢や発達をふまえて、いろいろな動きを取り入れることも大切。	31年
No	未記入 (1件)	保育歴
39	乳児期の音楽に合わせて、体を揺らしたり、動かしたりという保育者とのふれあい遊びも身体表現あそびの一つであり、基礎となるのではないかとと思う。どのような遊びにおいてもそうだと思うが、身体表現あそびも段階を踏まえた経験を重ねていくことが大切だと思います。	未記入

(2) 発展方法

「レパートリーの広げ方が難しいが、子どもの中から動き・表現が自然と出てくるので、そこをうまく広げていくとよいと思う。」(保育歴6年)とある。多くの保育者が頭を悩ませている「レパートリー不足・偏り」や「発展方法」の問題について、子どもたちの中から出てくる動きや表現を広げることで解決できるのではないかということが示唆されている。

(3) あまり構えず行う

「あまりかまえて行ったことがない。何をすれば自然と体が+a動いていけば身体表現だと思ったり、アイドルの真似をして、身振り・手振りを楽しめれば表現あそびとフランクに考えている。」(保育歴20年)や「堅苦しく考えずに行うことが必要で、保育者も楽しむ。」(保育歴31年)とあるように、身体表現あそびをあまり構えて行わず、保育者も一緒に子どもたちと表現を楽しむ姿勢が子どもたちの表現を引き出すポイントであることをこれらの言葉が示している。

(4) 段階を踏まえた経験

「乳児期に音楽に合わせて、体を揺らしたり、動かしたりという保育者とのふれあい遊びも身体表現あそびの一つであり、基礎となるのではないかと思います。どのような遊びにおいてもそうだと思うが、身体表現あそびも段階を踏まえた経験を重ねていくことが大切だと思います。」(保育歴未記入)とあるように、幼い頃から身体で音楽を味わったり、音楽に合わせて動いたり、何かになって動くことを積み重ねていくことが何より大切であると指摘している。

V. 考察

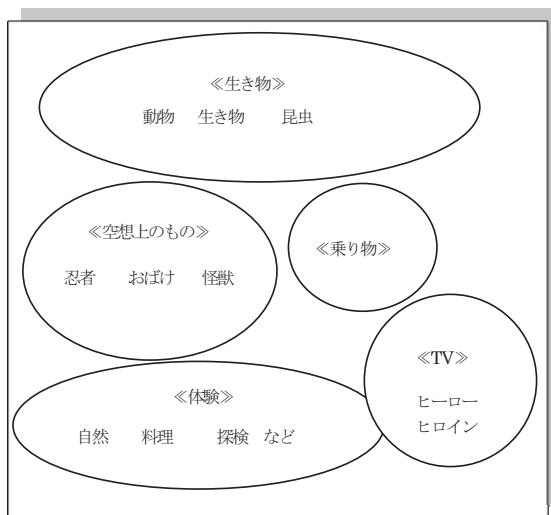
(1) 実践状況

身体表現あそびの実践は、日々の保育の中で根

付いており、実践時間や空間についても十分に確保されているということが明らかになった。今回の調査は、公立園に所属する保育者対象に行われた結果であるが、公立・私立を問わず、どの園においてもこのような結果が得られることが理想である。それが十分な身体表現あそびの実践の基本となると考えられる。

また活動時間については、特に午前・午後の「主活動の中」が多く、「保育室」で実践されていると分かった。その内容は、「体操」や「手あそび」、「歌あそび」が主であった。またそのテーマは、生き物(動物・生き物・昆虫)や空想上の題材(忍者・おばけ・怪獣など)、乗り物、生活や園生活で体験した題材(料理、自然、絵本・物語)などが多かった。

図24 身体表現テーマ



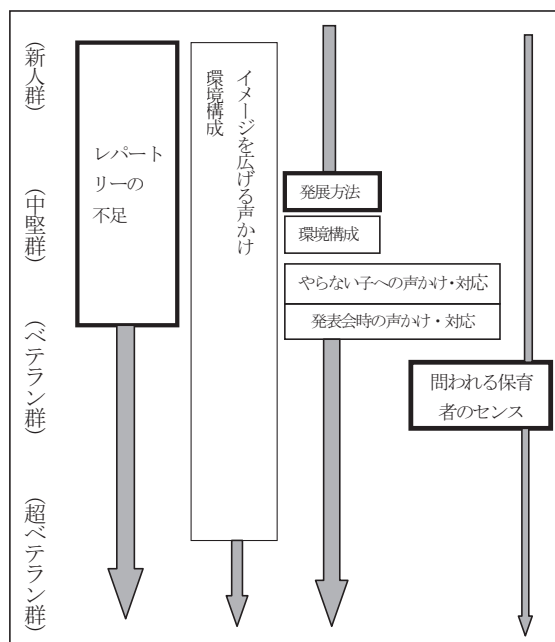
次に身体表現あそびの活動の重点項目としては、「十分に体を使かすこと」を多くの保育者が重視している。次に、「乳児クラス」では「保育者と一緒に活動を楽しむこと」、「幼児クラス」においては「他児と一緒に活動を楽しむこと」と「自分なりの表現をする」ことを大切に実践しており、年齢や発達に合わせたねらいを持って行われてい

ると分かった。

(2) 実践上の問題点について

身体表現あそび実践上の問題点として、以下のようによまとめられた。

図 25 身体表現あそびを実践上の問題点



前回の研究では、「やらない子への声かけ・対応」が保育歴に関係なく、問題点として挙げられたが、今回の研究では、保育歴に関係なく、8つの項目が実践上の問題点として確認された。「レポーター不足・偏り」や「問われる保育者のセンス」は保育者自身の問題であり、「発展方法」や「子どもたち主体で進めること」、「イメージを広げる声かけ」、「やらない子への声かけ・対応」は実践上の問題点であり、「発表会時の声かけ・対応」は発表会場面で起こる問題点である。

これらの解決方法について、検討していきたい。

① 進んで取り組まない子どもへの声かけ・対応

進んで取り組まない子どもへの声かけ・対応の問題については、エピソードより得られた4つの

ポイントが解決へと導くと考えられる。

まずは保育者や他児などの楽しそうに活動する「モデル」が重要となり、楽しそうに遊ぶ姿が刺激となって、動きたくなる動機を生む。次に、見ていることも参加とする「強制しない働きかけ」である。そして、やりたくない子どもの気持ちを受け止め、動きたくなるまで待つ辛抱強さと常に誘いかける働きかけが身体表現あそび実践に求められる。そして、動き出した時はたとえ小さな動きであっても見逃さずに誉めることが重要である。また言葉に出して誉める以外にそっと見守ることが有効な場合もある。

また発表会の場面では、普段の保育の延長線上に発表があるということを入れておきたい。身体表現あそびを日々しっかり楽しむことが大前提にあり、人前で発表することが苦手な子に対しては、特に慎重に対応していきたい。また保護者にもその子なりの成長を感じてもらうように事前の説明や発表までの過程を伝えていくように留意する必要がある。

② 子どもたちの動きや表現を広げること

多くの保育者が感じることの多い「自身のレポーターが少ない、偏りがあると感じる」や何かの動物もしくは乗り物になってみたが、それで終わり、次にどうしていいのか分からないと行き詰ってしまう「発展方法」の問題は、「子どもの動きや表現からあそびを展開する」ことで解決できるのではないかと。子どもたちから出てくる発想を起点とすることで、一つのアソビから次々と他のアソビやイメージに展開していくことができる。そうできれば、子どもも保育者も身体表現あそびの活動を楽しむことができる。そうするためには、子どもたちがどのような動物や乗り物を表現しているのか、どんな風に、またどのようなイメージを持って表現しているのかを読み解く力が保育者に備わっていなければならない。子どもた

ちの中から湧き出た動きを一つ一つ取り上げ、声をかけて認めていくことで、子どもたちの中で生まれたイメージがはっきりとしたものに意識化され、さらにイメージを広げていくことができる。それをクラスで紹介したり、友達と共有して楽しむように働きかけたりすることで、身体表現あそびはどんどん展開していくのではないだろうか。

③ 子どもたち主体で進めること

今回の研究からも、保育者が見本として動いて見せることの大切さが示された。しかし、逆にそれが表現の押し付けになってはいないかと多くの保育者が悩むところとなっている。子どもたちの表現を引き出したい→なるべく見本を示さないようにしたい→どう動いて分からない子どもたち→身体表現あそびを難しいと感じるという負の連鎖につながっている。

今回の研究でも明らかになったように、身体表現あそびにおいては、まず保育者の「真似」から始めることは、子どもたちが動き出す効果的な働きかけとなる。最初は保育者の真似でよい。そこから始め、子どもたちがいろいろな動き方を経験し、こんな風に動くことができる、あんな風に動くことができる、と体験することが大切である。そうすることで、次はこんな風にやってみよう、あんな風にできるかなと考え、思うように動く意欲が生まれる。「動き」の土台を十分に耕すことが子どもたちに様々な動きの選択肢を与え、自分の好きな動きや自分がやってみたい動きを見つける手助けとなる。

④ 構えて行わない

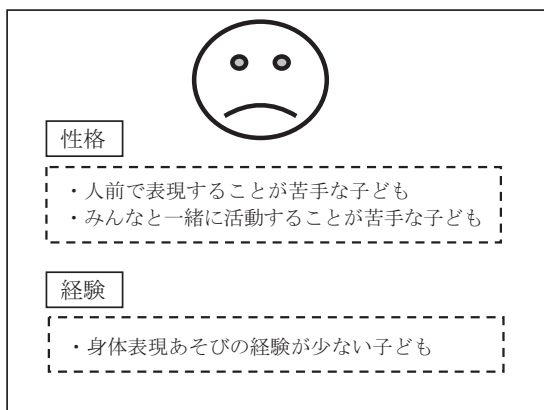
ある保育者の意見に、身体表現あそびに基本的に子どもたちは進んで参加しており、あまり構えて行うのではなく、自分も一緒に楽しむ気持ちが大切なのではないかとあった。保育者が子どもと一緒に表現の世界を楽しむ気持ちを持つことで、子どもたちの世界に近づくことができ、そのイ

メージを共有することができるのではないだろうか。日々の生活の中で感じる感動や喜び、驚きや悲しみを一緒に共感し合い、それを言葉にしながら、また言葉にできない気持ちを子どもも保育者も身体や動きで表していくことが大切である。

(3) 進んで取り組むことができない子どもについて

「進んで取り組むことができない子どもの姿」については、以下のようにまとめられた。

図 26 進んで取り組むことができない子どもの姿



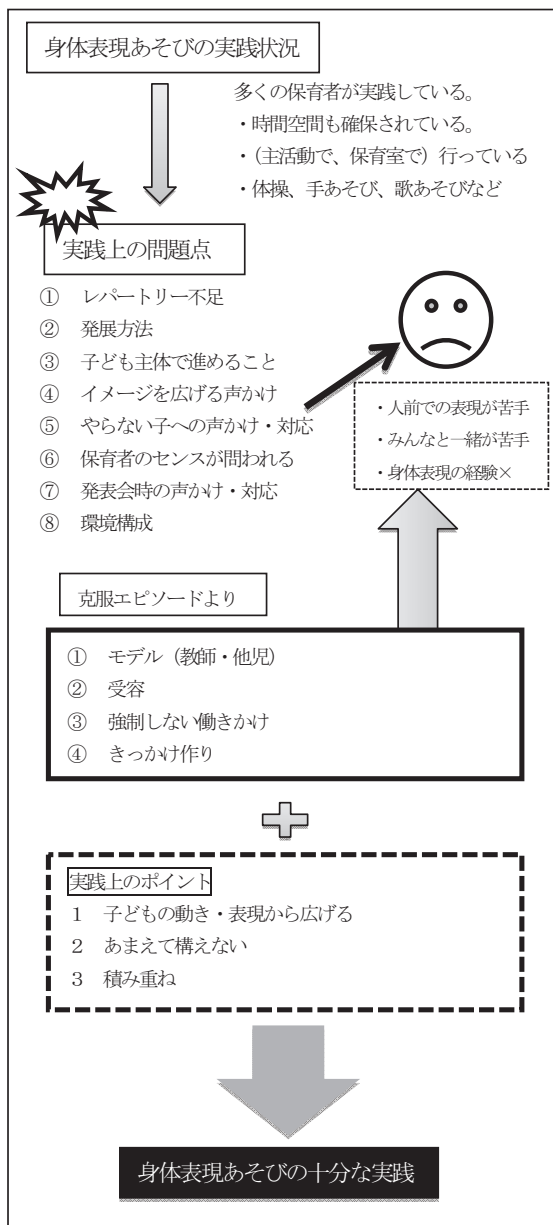
本研究で明らかになった「人前で表現することが苦手」や「みんなと一緒に活動することが苦手」については、子どもの気質や性格に関わる部分である。その問題を克服するためには、子どもの育ちを見ながら、保育者がじっくり腰を据えて対応・援助していく必要がある。一方、「身体表現あそびの経験が少ない」という問題は、身体表現あそびの経験を増やしていくことで解決することができるのではないかと。

小さい時から身体で表現する機会を段階的に持つこと、また日々そういう経験を積み重ねること、「身体表現あそびの経験の確保」が身体表現あそび実践の手立てとなると考えられる。

VI. まとめ

今回の研究から、身体表現あそびが保育現場でしっかり実践され、実践時間も場所もしっかり確保されているということが分かった。特に進んで取り組むことができない子どもへの対応としては、「モデル」、「受容」、「強制しない働きかけ」、「きっかけ作り」の四つのキーワードが導き出され、解決の手立てとなると考えられる。また「子どもたちの動きや表現を拾って展開する」ことや「段階的に身体表現の経験や体験を積み重ねていく」ことが身体表現あそびの実践には欠かせないことであり、加えて、子どもたちは身体表現あそびに基本的に喜んで参加しており、保育者側があまり構えて行わず、子どもたちと身体表現あそびを楽しむ気持ちを持つことが何より大切であると分かった。

図 27 身体表現あそびの実践状況と実践上の問題点の概念図



謝辞

本研究におきまして、研究の趣旨をご理解頂き、お忙しい中にも関わらず、快く質問紙調査にご協力頂いた先生方、園長先生方には深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、みどりこども園の秋山千津子先生には質問紙回収にご尽力頂きました。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

【注】

- 1 ・単著「保育者の「身体表現あそび」についての意識調査」(湘北短期大学紀要 第29号 2008年)
・単著「幼稚園における身体表現あそびの実践内容について—保育歴による違いから—」(湘北短期大学紀要 第33号 2012)
- 2 前掲書
- 3 幼稚園教育要領〈平成20年告示〉第2章ねらい及び内容「表現」

【参考文献】

文献

- ・岡田陽『子どもの表現活動』(玉川大学出版、1994年7月)
- ・黒川建一編『『新・保育講座 保育内容「表現」』(ミネルヴァ書房、2004年1月)
- ・花原幹夫編『保育内容「表現」』(北大路書房、2005年4月)
- ・西洋子・本山益子編『子どもの身体表現～からだところろ・あらわしてあそぼう～』(市村出版、2009年4月)
- ・西洋子、本山益子、吉川京子『子ども・からだ・表現—豊かな保育内容のための理論と演習—』改定2版(市村出版、2009年5月)

論文

- ・西洋子・本山益子「幼児期の身体表現の特性Ⅰ—動きの特性と働きかけによる変化—」(『保育学研

究』第36巻第2号、平成10年12月25日)

- ・本山・西・鈴木・吉川「保育の中の「身体表現」—その現状と展望—」(『保育士養成研究』第20号、2002年)
- ・鈴木・西・本山・吉川「幼児期における身体表現の特徴と援助の視点」(『舞踊学』通号25号、23-30頁、2002年)
- ・本山・平野「身体表現あそびの保育内容の検討—2～5歳児クラスでの「草むらごっこ」の実践から」(日本保育学会第64回発表要旨集、294頁、2011年)
- ・高野牧子「幼児期における創造的身体表現の有効性に関する実践的研究—Laban理論を基礎として—」(平成24年度JAPEW未来世代研究発表会第56回研究論文発表部門要旨抄録、7頁)

On the Issues of the Practice and the Conditions of the Practice of Creative Movement

Ayaka TAGO

[abstract]

What should be done in order to have creative movement performed sufficiently under actual childcare conditions? I believe it is important to clarify the issues on the practice of creative movement. Thus, the objective of this research will be to clarify concrete methods and points to keep in mind towards practicing creative movement.

[key words]

Childcare Details, 'Expression', Creative Movement Daycare Center

